

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	貸倒損失
前受金	手形貸付金	仮受金	受取配当金
受取手形	借入金	雑益	支払利息
仮払金	売掛金	受取利息	前払金
現金過不足	支払手形	雑損	償却債権取立益
手形借入金	当座	手形売却損	当座借越

1. 前期に得意先和歌山商店が倒産し、その際に売掛金¥300,000の貸倒れ処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い¥120,000の分配を受け、同額が普通預金口座へ振り込まれた。
2. 期中において現金実査を行った結果、金庫内に硬貨¥3,520、紙幣¥256,000、配当金領収書¥30,000、得意先振出しの小切手¥300,000、得意先振出しの約束手形¥320,000が保管されていた。なお、帳簿上の現金の金額は¥594,520である。
3. 得意先鈴木商店より受け取っていた手形¥730,000を取引銀行で割引き、割引料を差し引かれた残額が当店の当座預金口座（入金直前の残高は借越額¥450,000）に入金されていた。なお、割引料の計算は割引率3%、割引日数60日、1年間を365日として計算する。当店では当座預金勘定と当座借越勘定を用いて処理している。
4. 斎藤商店に対して¥2,500,000を貸付け、同額の約束手形を受取り、利息¥100,000を差し引いた残額を当店の普通預金口座から斎藤商店の当座預金口座に振り込んだ。
5. 従業員が出張から戻り、さきの当座預金口座への¥500,000の入金は、得意先侍商店からの売掛金¥350,000の回収および残額は得意先八代商店から受け取った商品代金の手付金であることが判明した。なお、入金時には内容不明の入金として処理してある。

第2問 (10点)

次の仕入帳と売上帳の記録にもとづいて、甲商品について商品有高帳を作成し締め切りなさい。なお、商品の払出単価の決定は移動平均法により行い、摘要欄は取引の概要を記入する。

仕入帳

平成29年	摘要	金額
9 8	浜松商店 掛	
	甲商品 20個 @ ¥220	4,400
18	指宿商店 約手	
	乙商品 30個 @ ¥320	9,600
22	山川商店 現金	
	甲商品 55個 @ ¥220	12,100

売上帳

平成29年	摘要	金額
9 10	熊谷商店 掛	
	甲商品 40個 @ ¥310	12,400
19	恵比寿商店 掛	
	甲商品 5個 @ ¥320	1,600
28	鳩ヶ谷商店 現金	
	甲商品 40個 @ ¥300	12,000

第3問 (30点)

会計期間を平成29年1月1日から平成29年12月31日までとする木内商店の次に示す[資料1]および[資料2]にもとづき、答案用紙に示す平成29年1月31日の残高試算表を作成しなさい。なお、利息は月割計算によるものとする。

[資料1]

		繰越試算表			
		平成29年1月1日		(単位:円)	
現金	998,000	支払手形	652,000		
当座預金	895,000	買掛金	1,895,000		
受取手形	1,000,000	未払広告宣伝費	6,800		
売掛金	1,800,000	預り金	9,000		
繰越商品	250,000	借入金	3,200,000		
前払金	150,000	貸倒引当金	60,000		
未収入金	300,000	建物減価償却累計額	856,000		
貸付金	900,000	備品減価償却累計額	320,000		
未収利息	5,600	資本金	4,749,800		
建物	4,800,000				
備品	650,000				
	<u>11,748,600</u>				<u>11,748,600</u>

[資料2] 平成29年1月中の取引

1. 前期末に見越計上された損益項目の再振替処理を期首に行った。
2. 1月1日に備品(取得原価¥350,000、減価償却累計額¥240,000)を売却し、代金¥100,000は翌月末に受取る予定である。
3. 仕入先より商品¥300,000を購入し、代金のうち¥80,000は以前支払った手付金を充当し、残額は当店受取済みの約束手形を裏書譲渡して支払った。
4. 前期に発生した売掛金¥40,000が貸倒れた。
5. 従業員の出張にともない、旅費の概算払い額¥100,000を現金で支払った。
6. 得意先に対して商品¥500,000を販売し、代金のうち¥200,000は当社振出し済みの約束手形で受取り、残額は掛けとした。
7. 出張中の従業員より回収した売掛金¥420,000が当座預金口座に入金された。
8. 当社が振出した約束手形¥222,000の決済期日が到来し、当座預金口座より引き落とされた。
9. 仕入先より商品¥680,000を購入し、代金は掛けとした。
10. 源泉所得税額¥9,000の支払期限が到来し、現金で所轄税務署に納付した。
11. 得意先より受け取っていた約束手形¥200,000の決済期日が到来し、当座預金口座に振り込まれた。
12. 従業員に対して給料¥382,000を現金で支払った。なお、源泉徴収税額は¥8,000である。
13. 出張から帰った従業員より領収書¥85,000を受け取り、差額は現金で決済された。
14. 得意先に対して商品¥896,000を販売し、代金は掛けとした。
15. 広告宣伝費として¥65,200を現金で支払った。
16. 貸付金および利息の合計額¥486,400が当座預金口座へ入金された。なお、年利率は2%であり貸付期間は8か月である。
17. 得意先より商品代金の手付金として¥100,000を現金で受け取った。
18. 水道光熱費¥38,500が当座預金口座より引き落とされた。
19. 従業員の定期券購入代金¥17,240を現金で支払った。

第4問 (10点)

次の備品に関する記帳は間接法または直接法による勘定記入面を表したものである。次の各勘定の(ア)から(オ)に当てはまる適当な語句または金額を記入しなさい。

<間接法で記帳>

備	品
H28. 1. 1 前期繰越 (ア)	H28. 12. 31 (オ) ×××
H28. 7. 1 現金 800,000	
備品減価償却累計額	
H28. 12. 31 (オ) ×××	H28. 1. 1 前期繰越 200,000
	H28. 12. 31 減価償却費 (エ)

<直接法で記帳>

備	品
H28. 1. 1 前期繰越 300,000	H28. 12. 31 減価償却費 (エ)
H28. 7. 1 (イ) (ウ)	" (オ) 900,000

第5問 (30点)

次の資料をもとに、答案用紙に示す貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は平成28年1月1日から平成28年12月31日までの1年間とする。

1. 決算整理前残高試算表

残高試算表		平成28年12月31日		(単位:円)
現	金	256,200	支払手形	325,000
受取手形		586,000	買掛金	1,256,000
売掛金		394,000	前受金	56,000
繰越商品		52,300	貸倒引当金	2,560
消耗品		120,000	建物減価償却累計額	1,687,500
建物		3,000,000	備品減価償却累計額	550,000
備品		1,200,000	資本金	4,084,540
土地		5,000,000	売上	14,285,600
仕入		6,253,500		
給料		4,468,000		
水道光熱費		652,300		
支払保険料		18,900		
雑費		246,000		
		22,247,200		22,247,200

2. 決算整理事項等

- (1) 売上債権(受取手形および売掛金)残高に対して1%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- (2) 期末商品棚卸高は¥223,500である。
- (3) 消耗品の未使用額は¥22,200である。
- (4) 減価償却を次のように実施する。
 - ① 建物について、残存価額を取得原価の10%、耐用年数を30年とする定額法により減価償却を行う。
 - ② 備品について、残存価額をゼロ、耐用年数を6年とする定額法による減価償却を行う。
- (5) 給料の未払額は¥254,600である。
- (6) 支払保険料は前期以前より毎年4月に向こう1年分の保険料を支払っているため、当期の期間に属しない分を繰り延べる。